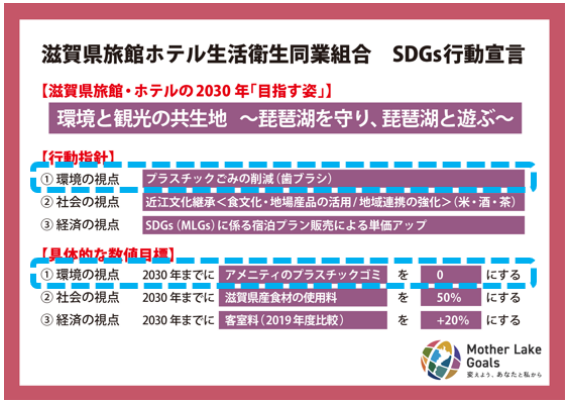
龍谷大学　滋賀県旅館ホテル生活衛生同業組合との連携事例

令和7年11月時点

自治体の課題（ニーズ）



宿泊業にとって、おもてなしの一環である「アメニティサービス」を廃止することは簡単ではない、と思われた。

滋賀県旅館ホテル生活衛生同業組合は、滋賀県内で宿泊業を営む203社(2023年2月現在）で構成される組合で、環境推進県である滋賀県の宿泊事業者として、2022年1月に環境と観光の共生を目指したSDGs行動宣言を発表した。

その中で、2030年までに宿泊客に提供するアメニティプラスチックゴミをゼロにすることを目標を掲げたが、現状把握（アメニティの調査）と廃棄物の有効利用やアドバイスを、龍谷大学に依頼された。

研究成果（シーズ）の還元



組合が作成した啓発ポスター



しがCO2ネットゼロみらい賞
表彰式の様子
三日月知事と前川組合理事長

アメニティサービスに係るデータを分析・活用しながら、ライフサイクルアセスメントを実施した。その結果、プラスチック製歯ブラシの場合、2022年度は年間2,068,664本使用し、廃棄量は19.9トン、CO2排出量は127.4トンと算出でき、くし、ヘアブラシ、髭剃り、シャワーキャップなどの値とともに、組合で啓発ポスターを作成、宿泊者への啓発活動を展開中。その結果、組合は滋賀県からR5年度の「しがCO2ネットゼロみらい賞」を受賞した。

※　滋賀県旅館ホテル生活衛生同業組合の記事HPは（URL：https://www.shiga-ryokan-kumiai.jp/archives/3138）を参照下さい。

■　この連携に携わった研究者



先端理工学部　環境科学課程
水原　詞治　講師

（研究者の経歴）

龍谷大学大学院理工学研究科環境ソリューション工学専攻博士後期課程修了。博士（工学）。
2012年国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター特別研究員。2014年龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科助教に着任、2019年より龍谷大学理工学部環境ソリューション工学講師、2020年より現職。2021年、廃棄物資源循環学会奨励賞を受賞。

※　研究者の経歴等は（URL：https://researchmap.jp/mizushin/?lang=japanese）をご参照下さい。